

備える 3.11から

の陸前高田市より南で全体の78

第17回 防災報道を問う

マスコミ倫理懇親会「減災・防災報道」



だが、震災後の読者
アンケートでは、事前
の防災記事が「役に立
神戸新聞・岸本達也

マスク・ミ論理懇談会が開かれ、減災・防災報道について語られた分科会=名古屋市中区のホテルで

6

教訓正しく伝えよ

名古屋大震災連携研究センター
基調講演
隈本 邦彦客員教授

1957 アンドレアノフ地震 Mw9.1

1952 カムチャツカ地震 Mw9.0

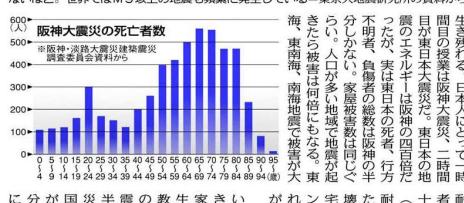
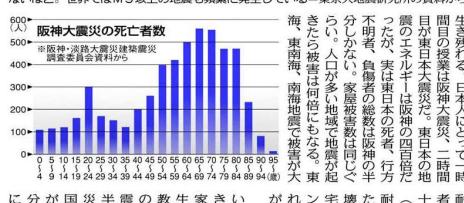
2011 東北地方太平洋沖地震 Mw9.0

1964 アラスカ地震 Mw9.2

2004 スマトラ島沖地震 Mw9.0

2010 チリ中部地震 Mw8.8

1960 チリ地震 Mw9.5



前半過ぎの間も、さうは、おこり注がれて、三番

メディア試行錯誤



七割の人が今も「戻り erleた」と、上空から被 県民にはヒント来たた
たい」と思いながら震 災状況を確認し、取材 ではないか。
ていない。阪神の今、態勢を決める方法が取 地震に話を移すと、

地震対策

と。上空から被
県民にはいと来たの
を確認へ取材
ではないか。
決める方法が取
地震に話題移すと、

水害で甚災に遭つた。また、東北地方では、1923年（大正12年）の関東大震災で甚災に遭つた。東京が被災し、ない日、今年七月に台風、連続して襲来して、甚災に遭つた。身動きが取れなくなつて、屋根が接近した際、猛烈に痛がつたので、津波地方気象台の情報で、阪神の時は已被災した。阪神の時は甚災に遭つた。

て復興を追いかけ
て、決めた。読者
は、朝日・杉山貴
弘氏（社会部記者）
の豪雨で多数の死者、
東日本大震災の取材が
行方不明者が続出。三
月十七日㈮、死者重
きに見えていた。つい
て、朝日・杉山貴
弘氏（社会部記者）
は、豪雨で多数の死者、
東日本大震災の取材が
行方不明者が続出。三
月十七日㈮、死者重
きに見えていた。つい

民の関心が高くなり、行政としても早めの対策ができた。の点を決めて十年か
一〇〇四年九月三十

比較的小規模だったので、次第に「今合意する」と報じた。しかし、「蔓延する」ことによって、言葉だけでは、チヤンスがなくなってしまった。ヒントを取る言葉だと、こうしてしまった。「備える」というより、キーワードがあつた結果、住むような気分がある。そういう雰囲気がある。そんな気楽的な状況

と、淡路島には半日超る。一方で災害から時行氏、二〇〇九年に台の津波が来る想定があるが、間がたつと、関心が薄風18号が接近した時、前回の南海地震がれててしまう。減災・防災新聞が「伊勢湾台

次回は、「避難所の誕生③」をお伝えします。

いわきの仮設に当選

実りの秋、仮設住宅の食卓にのぼったナシをかじりながら光一さんが懐かしそうにつぶやいた。「大熊町でも良いナシが採れたんですよ」

一家の自宅がある大熊は太平洋を望む温暖な土地。同じ福島県でも、今の仮設住宅がある会津若松市とは100%も離れ、気候

も風土も違う。「冬の寒さや雪かきの苦労を思うと、今から憂鬱（ゆううつ）」と幸さんがため息をつく。会津でてきた知人からも「浜の人は住めねえよ」と冗談交じりに言われる。

愛知県豊田市の県営住宅から会津若松の温泉旅館、そして現在暮らす仮設住宅…。原発事故以来、半年余りで数々と住居を変えた一家にとって、やはり古里は福島県の沿岸部だ。「だから、駄目でもともと想い

いつの日か
—17—
原発1周年記念

つつ、いわき市の仮設住宅へ入居申請したんです。そうしたら最近、当選の知らせが来た」と光一さん。大熊と生活圏の重なるいわきへ移転を望む市民は多い。倍率は3倍と聞いていただけに、突然の朗報だった。

ただ、今まで転居すれば高校受験を控えた沙也加さんは3度目の転校となってしまう。「さすがにそれはできない。沙也加の卒業を待ち、次の春に移ろうと考えています」と光一さん。それまでには、国や東電

の補償は進んでいるのか。生活再建の道筋は少しは見えているだろうか。いまだ晴れない不安を抱えたまま、一家は会津で冬を越すことを決めた。

岡（はなわ）さん一家、原発事故で福島県大熊町から避難。光一さん（43）と妻幸さん（43）、次女沙也加さん（15）は豊田市で暮らし、会津若松市に移った。長女梨奈さん（18）は東京で大学生活。